

東京都スポーツ推進総合計画の改定について

資料目次

1. 現行計画策定後の、都のスポーツを取り巻く環境や社会状況の変化について
2. 現行計画期間中の主な取組とスポーツ実施率の推移について
3. 現行計画で掲げた各指標の推移、今後の課題・施策の方向性等について
(政策目標 1 ～ 3)
4. 次期計画で取り扱う「スポーツ」の範囲について
5. 次期計画の方向性（基本的な考え方）について
6. 計画改定のスケジュール（予定）について

1. 現行計画策定後の、都のスポーツを取り巻く環境や社会状況の変化について

2018年3月

東京2020大会の開催決定などを受け、当時の「東京都スポーツ推進計画」及び「東京都障害者スポーツ振興計画」を統合し、「東京都スポーツ推進総合計画」を策定
計画期間：2018年4月～2025年3月

2019.9 ラグビーワールドカップ2019™開催

新型コロナウイルス感染症の発生

2020～

新型コロナウイルスの影響により、スポーツを始めとした様々な活動が制限される（イベント自粛、無観客開催、入場制限等）

2020.3 東京2020大会の1年延期が決定

2021.7～ 東京2020大会開催（原則無観客）

2022.1 TOKYOスポーツ
レガシービジョン策定

2022.3 第3期スポーツ基本
計画策定（国）

■様々なレガシーの創出
・アーバンスポーツやパラスポーツへの関心の高まり
・ボランティア文化の定着
・新規恒久施設の整備 など

2022.7、9 世界陸上、デフリンピック開催決定

2023.5

新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが5類に移行、各種スポーツ大会、イベントの再開

2023.7 TOKYO2020レガシーレポートの策定

計画期間（7年間）

計画期間中における様々な社会状況の変化

人口減少、少子高齢化の加速

- ・スポーツに参画する者の減少
- ・スポーツの担い手の不足
- ・地域におけるスポーツ環境の維持が困難となる可能性
- ・地域コミュニティの衰退
- ・高齢化の進展に伴う健康志向の高まりと医療費総額の上昇

子供のスポーツ離れ

- ・子供の総運動時間の減少
- ・子供の体力低下、肥満度の上昇
- ・子供の運動を取り巻く環境の変化（遊びの多様化、不活発な生活習慣の定着など）
- ・経済格差によるスポーツ体験格差

新たなスポーツ活動などの登場

- ・アーバンスポーツ、ニュースポーツ、レクリエーションスポーツ、eスポーツといった多種多様な活動の登場

スポーツ・インテグリティ向上の必要性

- ・スポーツ団体のガバナンス強化やコンプライアンス推進
- ・指導時の暴力根絶や、ハラスメント防止

DX、AIなどの技術革新

- ・VR・ARを活用した新たなスポーツの楽しみ方
- ・データ分析によるアスリートのパフォーマンス向上、指導ではなく動画視聴による練習の実施
- ・AIによる健康関連などビッグデータの解析・活用
- ・運動場所の変容（自宅での運動の増加）

多様化の進展

- ・性自認など個人の価値観を尊重する意識の高まりや、共生社会の実現に向けた機運の高まり
- ・都内在住の外国人の増加
- ・テレワークの浸透やオンライン化（非対面）によるライフスタイル、働き方の多様化

環境問題・気候変動の深刻化

- ・熱中症による救急搬送
- ・猛暑による、相次ぐ試合中止や延期など、気候変動の深刻化によるスポーツ実施への影響が顕著に

2025年3月

上記の様々な状況変化を踏まえながら、東京2020大会後の都のスポーツ行政の羅針盤となる計画へ改定を行う
計画期間：2025年4月～2031年3月（案）

2. 現行計画期間中の主な取組とスポーツ実施率の推移について

現行計画期間中の主な取組・成果

○「健康長寿の達成」、「共生社会の実現」、「地域・経済の活性化」の3つの政策目標のもと、スポーツ振興審議会でも意見を賜りながら、関係各局と連携し、202の事業を実施

⇒ 計画策定時と比べ、都におけるスポーツの状況は大きく進展

政策目標	取組・成果
政策目標01 健康長寿の達成	● 都民へのスポーツ情報の発信 スポーツに関する多面的な情報発信を行い、スポーツ情報に触れる機会を提供 〔R4実績：スポーツTOKYOインフォメーション ビュー数1,353,293回/年、障スポナビ ビュー数239,375回/年、パラスポーツスタートガイド ビュー数218,403回/年〕 ● ウォーキングイベント「TOKYOウォーク」の開催 都民の健康づくりに向け、誰でも気軽に参加できるウォーキングイベントを開催 〔R4実績：参加者数 3,515人〕 ● 区市町村が実施する、スポーツイベントやスポーツ環境整備等への支援 スポーツ実施率やパラスポーツの関心度向上に資する区市町村の事業に対して補助を実施 〔R4実績：地域スポーツ推進(44地区132事業)、パラスポーツ推進(42地区114事業)〕 
政策目標02 共生社会の実現	● 参加・体験型障害者スポーツイベント「チャレスポ! TOKYO」の開催 障害者がスポーツを始めるきっかけを提供するとともに、障害のある人となない人が、スポーツを通じて相互に交流する機会を提供 〔R4実績：参加者数 約1,000人〕 ● 「TEAM BEYOND」を活用した魅力発信 パラスポーツの魅力や見どころを継続的に発信するとともに、障害の有無を問わず、広く都民等が参加する大会やイベントを開催 〔R4実績：都民等が参加できるボッチャ大会 一般参加40チーム〕 ● 都立特別支援学校活用促進事業 障害のある人や障害者スポーツ団体等が、身近な地域でスポーツ活動ができるように体育施設を貸出。 障害の有無に関わらず誰もが参加できる体験教室を開催。 〔R4実績：貸出事業対象校 29校、体験教室 127回〕 ● 「シニア健康スポーツフェスティバルTOKYO」の開催 59歳以上の方が参加するシニアのスポーツ大会を開催 〔R4実績：参加者数 2,340人〕 

車いすバスケットボール体験教室

2. 現行計画期間中の主な取組とスポーツ実施率の推移について

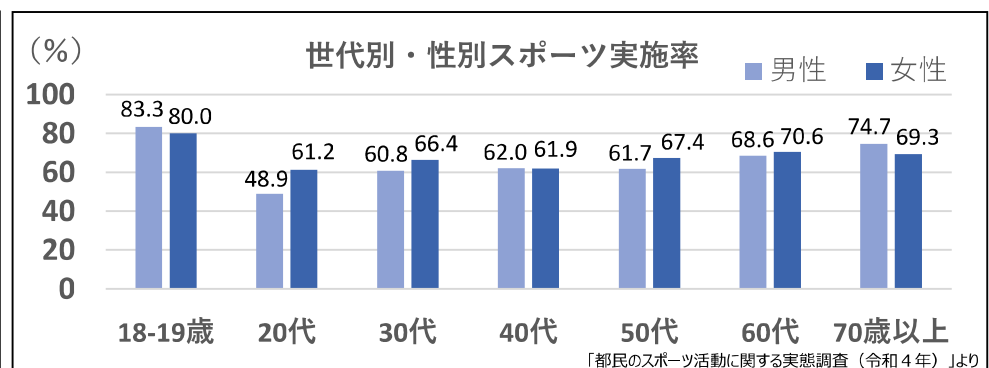
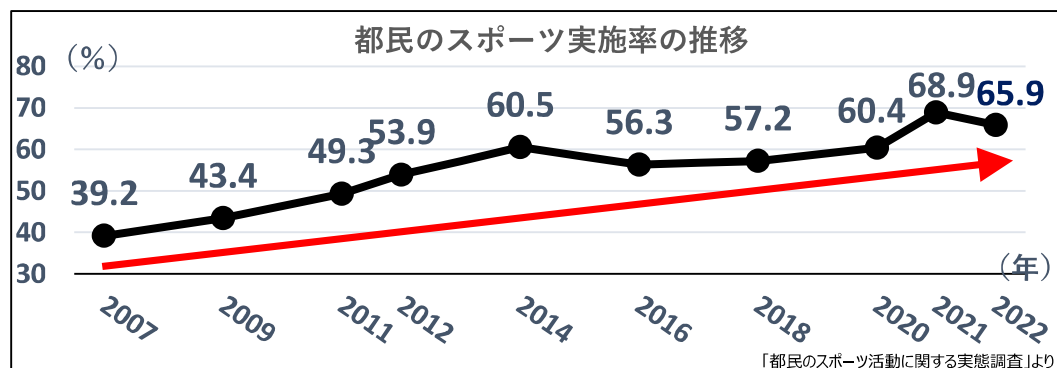
政策目標	取組・成果
政策目標03 地域・経済の活性化	●GRAND CYCLE TOKYO レインボーライド 環境にやさしく、健康にもよい自転車で、レインボーブリッジや海の森トンネルを駆け抜けるイベントを開催 〔R4実績：参加者 約8,000人（スポーツ体験イベント含む）〕 ●「東京マラソン」の開催 「する・みる・支える」全ての人がひとつになり、東京のスポーツ振興に寄与する世界最高峰のマラソン大会を開催 〔R4実績：定員 38,000人〕 ●様々なスポーツ大会への都民招待 大規模スポーツ大会等やプロスポーツチーム等が主催する試合への都民招待等によるスポーツ観戦機会の創出 〔R4実績：スポーツ観戦事業 23件、パラスポーツの観戦会の実施（TEAM BEYOND）5回〕 ●スポーツ推進企業認定制度 従業員のスポーツ促進やスポーツ支援に取り組む企業等を「東京都スポーツ推進企業」として認定し、認定企業の社員のスポーツ活動を推進する取組や、スポーツ分野における社会貢献活動に関し、ホームページ等で情報発信を実施 〔R4実績：認定企業 366社〕



GRAND CYCLE TOKYO レインボーライド

スポーツ実施率の推移

都民のスポーツ実施率は、着実に上昇しており、2022年度は、現行計画を策定した2018年度の57.2%から8.7ポイント増となる65.9%であった。目標値である70.0%にはまだ届いていないため、引き続き、各種スポーツ大会の開催によるスポーツ気運の醸成や、身近な運動機会の提供等により、更なる数値の向上と長期的な上昇傾向を維持・達成していく必要がある。



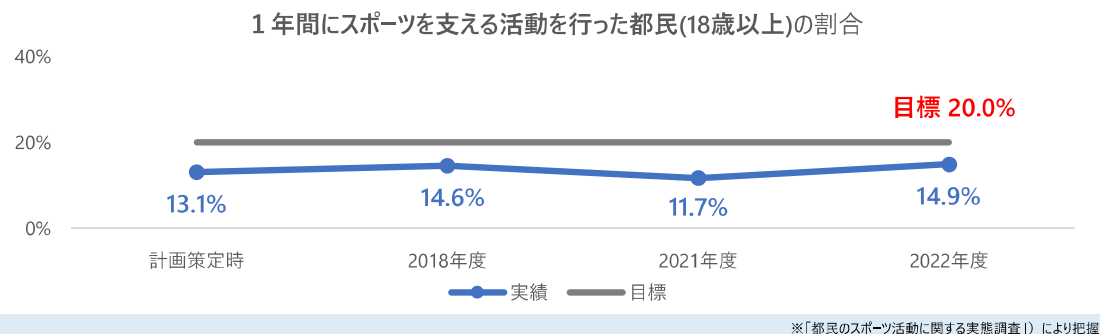
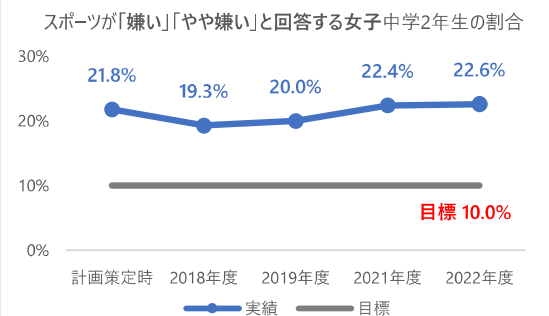
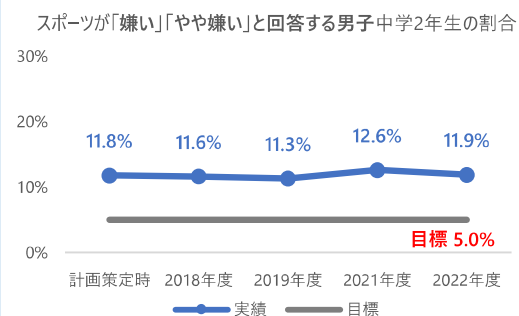
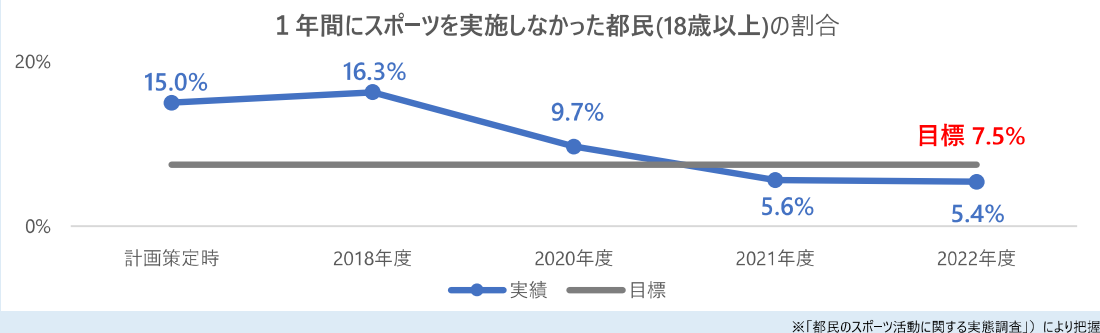
※全国数値：52.3%（令和4年度「スポーツの実施状況等に関する世論調査」（スポーツ庁）より）

3. 現行計画で掲げた各指標の推移、今後の課題・施策の方向性等について（目標1）

○都民の心身の健康を維持・増進させていくために、効果的なスポーツを継続的に実施してもらうことなどを目的として設定した指標

目標1…スポーツを通じた健康長寿の達成

指標の達成状況



課題・方向性等

- ✓ 2022年度の、1年間にスポーツを実施しなかった都民の割合は目標値7.5%に対して5.4%と指標を達成した。
- ✓ 引き続き、取り組みやすい運動の紹介など、スポーツの敷居を下げる取組により、スポーツ非実施層へのアプローチを進めるとともに、継続してスポーツに取り組める環境の整備を図っていく。

- ✓ 2022年度にスポーツを「嫌い」「やや嫌い」と回答した中学2年生の割合は、男子で目標値5.0%に対して11.9%、女子で目標値10.0%に対して22.6%であった。
- ✓ 生涯を通じてスポーツに親しむ都民の増加に向け、学齢期から運動習慣を身に付けさせ、男子・女子ともにスポーツ好きを増やしていくことが必要である。

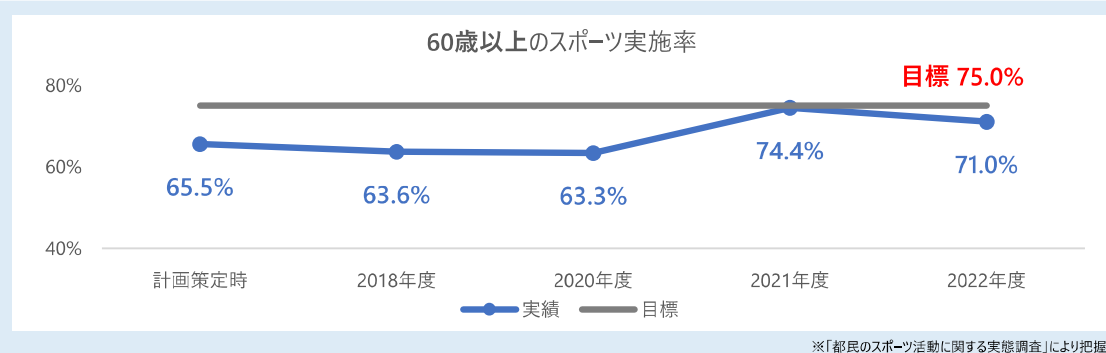
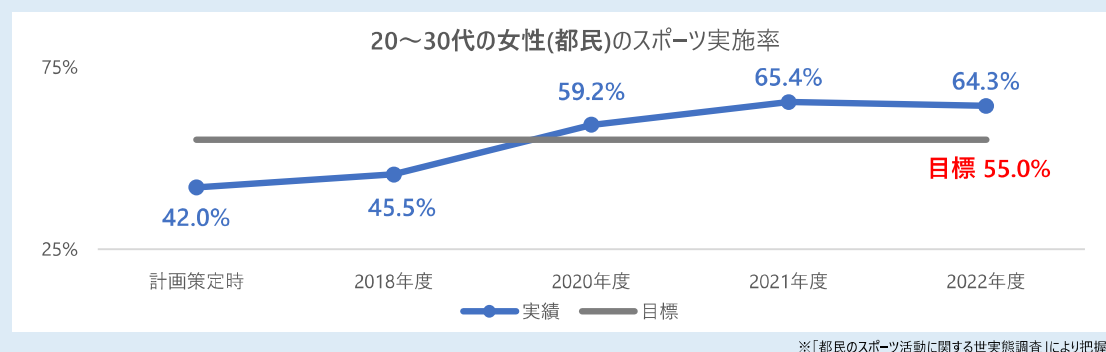
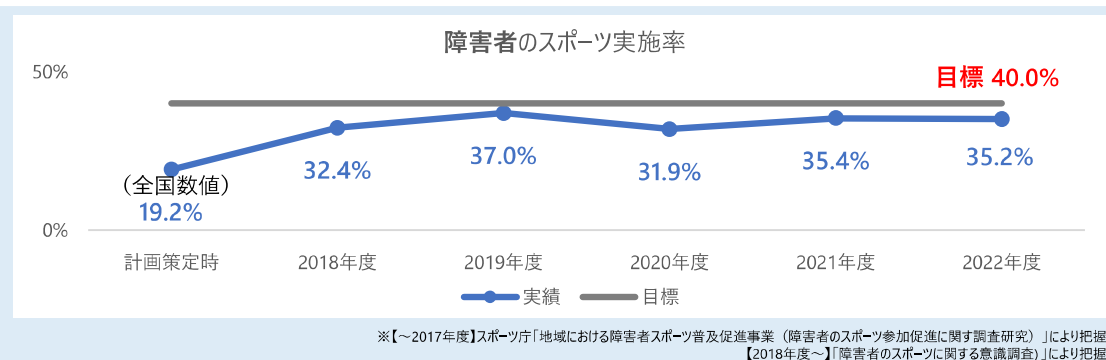
- ✓ 2022年度にスポーツを支える活動を行った都民の割合は、目標値20%に対して14.9%であった。
- ✓ コロナ禍での落ち込みから復調傾向にあるものの目標値には達しておらず、引き続き情報や機会の提供、研修会の開催などにより、ボランティアや指導者など支える人材の増加や質の向上を図っていく。

3. 現行計画で掲げた各指標の推移、今後の課題・施策の方向性等について（目標2）

○共生社会の実現に向け、都民にそれぞれの体力や身体能力に応じてスポーツを楽しんでもらうことを目的として設定した指標

目標2…スポーツを通じた共生社会の実現

指標の達成状況



課題・方向性等

- ✓ 2022年度の障害者のスポーツ実施率は目標値40.0%に対して35.2%であった。コロナ禍前(2019年)の37.0%には至らないものの回復傾向にある。
- ✓ 運動していない人や、継続したい人が取り組みやすい環境整備を多面的に展開していく必要がある。

- ✓ 2022年度の20～30代の女性のスポーツ実施率は目標値55.0%に対して64.3%と指標を達成した。
- ✓ 働き盛り世代については、男女間で実施率に差が生じているため、男性も含めた世代全体での底上げが必要である（男性20代 48.9%、30代 60.8%、女性20代 61.2%、30代 66.4%）。

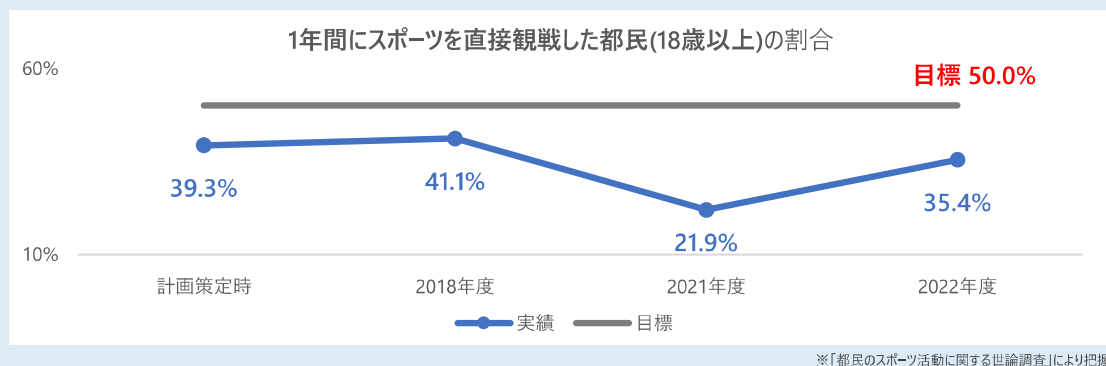
- ✓ 2022年度の60歳以上のスポーツ実施率は目標値75.0%に対して71.0%であった。
- ✓ 目標値には届かなかったものの、コロナ禍による行動制限期間中に大きく上昇して以降、高水準にある。
- ✓ 超高齢社会の進展を見据え、スポーツ振興を通じた健康寿命延伸や医療費抑制へ貢献していく必要がある。

3. 現行計画で掲げた各指標の推移、今後の課題・施策の方向性等について（目標3）

○都民に様々なスポーツを観戦したり楽しんでもらうとともに、そのためのアスリートの育成について設定した指標

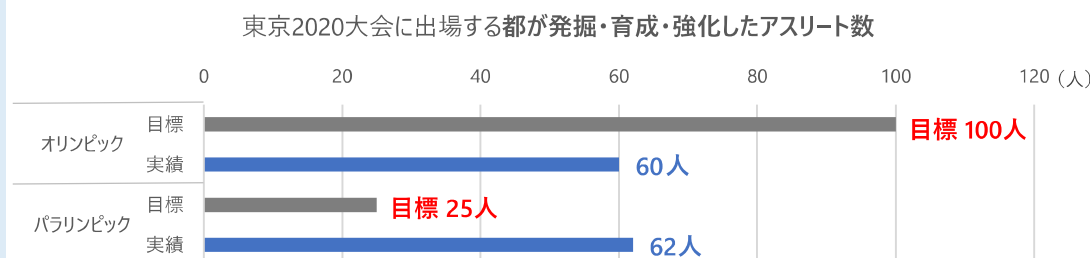
目標3…スポーツを通じた地域・経済の活性化

指標の達成状況



課題・方向性等

- ✓ 2022年度にスポーツを直接観戦した都民の割合は目標値50.0%に対して35.4%であった。
- ✓ スマートフォンなどデジタル機器を活用した観戦環境の整備が一層進んできているため、多様なメディアで観戦する都民の割合も含めて総合的に分析する必要がある。



- ✓ オリンピックに出場した、都が発掘・育成・強化したアスリート数は目標100人に対して60人であった。一方、パラリンピックでは、目標25人に対して62人と指標を達成した。
- ✓ アスリートが地域で活躍できる機会を創出することで応援気運を醸成し、競技スポーツの裾野を拡大させる。また、競技団体やアスリートを支援することで、国際大会をはじめ様々な舞台上で活躍できる基盤を整備する。

【各指標の達成状況について（まとめ）】

- ✓ スポーツ実施率は上昇傾向にあり、また1年間にスポーツを実施しなかった都民の割合について目標達成していることから、18歳以上の都民のスポーツ実施は全体として向上していると言える。
- ✓ 一方で、個別の指標を見ると、働き盛り世代の女性の実施率は目標を達成したが、高齢者の実施率は上昇基調にあるものの目標には達しておらず、子供のスポーツ嫌い、障害者のスポーツ実施率、「支える」活動の実施率などは横ばいの状況であり、一層の取組が必要である。

4. 次期計画で取り扱う「スポーツ」の範囲について

- 「スポーツ」はラテン語「deportare（気晴らしをする、楽しむ、遊ぶ）」が語源。
- 「スポーツ」の定義には様々な学説があり、スポーツに含まれる活動の範囲に明確な定めはない。
- スポーツ基本法は、「心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、自律心その他の精神の涵養等のために個人又は集団で行われる運動競技その他の身体活動」としている。
- 現行計画は、「ルールに基づいて、勝敗や記録を競うものだけでなく、余暇時間や仕事時間等を問わず健康を目的に行われる身体活動、更には遊びや楽しみを目的とした身体活動（相応のエネルギー消費を伴うもの）まで、幅広く捉えていく」としている。

次期計画における「スポーツ」の範囲についても、スポーツ基本法や現行計画を踏まえ、以下のとおり幅広く捉える形でいかがか。

次期計画で取り扱う「スポーツ」の範囲

競技スポーツ（ルールに基づいて勝敗や記録を競うスポーツ）

【具体的事例】 陸上競技、水泳、サッカー、ラグビー、野球、自転車競技、ボッチャ、ゴールボール など



目的（健康の保持・増進、気晴らし・楽しみ、美容など）を持った身体活動

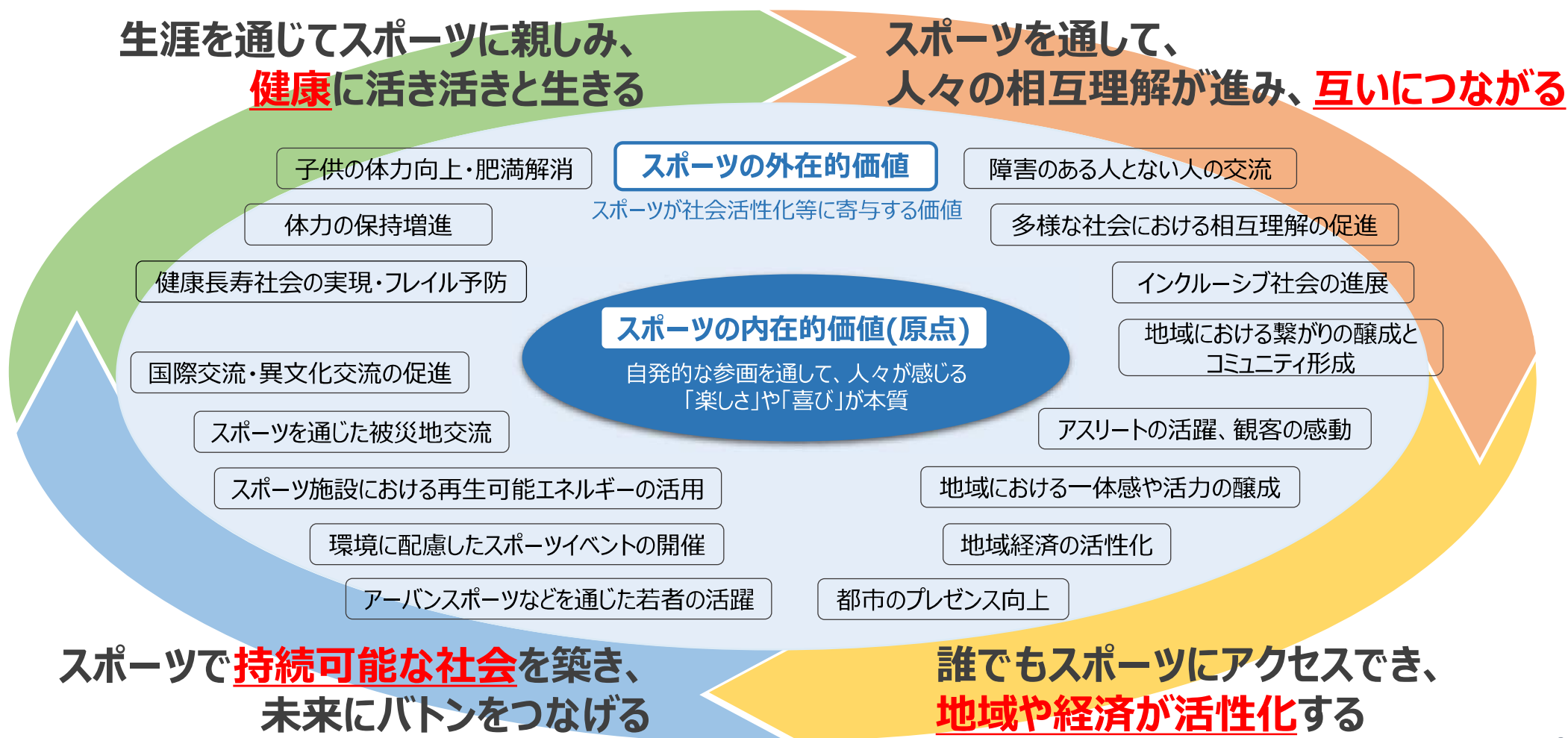
【具体的事例】 ウォーキング、ジョギング、サイクリング、筋力トレーニング、ラジオ体操、ダンス など

5. 次期計画の方向性（基本的な考え方）について

次期計画では、スポーツの価値やスポーツがもたらす効用を踏まえ、スポーツを通じてどのような社会を実現していくかを明らかにしていきたい。

【スポーツの価値（第3期スポーツ基本計画等に基づき整理）】

- ①「する」「みる」「ささえる」という様々な形での自発的な参画を通して、人々が感じる「楽しさ」や「喜び」に本質を持つ。（スポーツそのものが有する内在的価値）
- ②一方で、スポーツには、他の分野にも優れた効果を波及し、社会に変化を与え、様々な社会課題の解決に寄与する力もある。（スポーツが社会活性化等に寄与する価値、外在的価値）



6. 計画改定のスケジュール（予定）について

2023年度		2024年度	
3月	4～11月	12月	1月～3月
★3月：東京都スポーツ振興審議会（第2回） ・ 個別テーマに関する検討 ・ 都民のスポーツ活動に関する調査の集計結果の報告	4～11月：東京都スポーツ振興審議会 ・ 個別テーマに関する検討、計画改定に係る調査審議 等	★11～12月：＜都＞「東京都スポーツ推進総合計画（改定）中間のまとめ」の策定 東京都スポーツ振興審議会 ・ 「東京都スポーツ推進総合計画（改定）中間のまとめ」の審議 ＜都＞パブリックコメント ・ 上記「中間のまとめ」を公表し都民から意見聴取	★2月：東京都スポーツ振興審議会 ・ パブリックコメント結果の報告 ・ 「東京都スポーツ推進総合計画（改定）」への意見（答申）
			★3月：＜都＞「東京都スポーツ推進総合計画（改定）」の策定